

トピックス

■「企業・学生交流会」 10月14日(金)



社会人と学生・生徒が気軽に話せる場として、また、次年度のプロジェクトを立ち上げるきっかけのひとつになれば、との思いから開催された初の試み。次年度のプロジェクトにエントリー予定の企業や学生からのメンバー募集PRもあり、参加者約60名と小さい規模ながら、盛んに名刺交換が行われ、盛会のうちに終了しました。

■企業・団体のみなさま プロジェクトへのご協力をお願い

同志社ローム記念館では、プロジェクトに参加していただける企業・団体を募集しています。

- 学生のアイデアやニーズを事業に活かしたい!
- こんなテーマで学生たちとプロジェクトをやってみたい!
- おもしろいプロジェクトがあればサポートしたい!

など、ご興味をお持ちの企業・団体のみなさまはぜひ同志社ローム記念館事務室までご一報ください。

■短期プロジェクトを実施!

2011年12月、株式会社F-Style様からのご提案テーマにより、「facebookを題材にしたコミュニケーションツール利用状況のマーケティングリサーチ」が実施されました。

13名のメンバーが、2チームに分かれて世界最大SNS「facebook」について学生ならではの切り口で調査を行いました。



ローム記念館プロジェクトでは、こうした短期間でのプロジェクトやワークショップの実施により、新しいプロジェクト創出のきっかけになればと考えています。今後も企業・団体の皆様からのテーマのご提案をお待ちしております。

■2011年度同志社ローム記念館 プロジェクト最終成果報告会

日時: 2012年3月3日(土) 12:30~

場所: 同志社ローム記念館 劇場空間

報告会終了後、即日審査が行われ、夕方からの交流会にて「同志社ローム記念館大賞」が発表されます。

編集 後記

私のプロジェクト的「経験」として最も古い記憶は、小学校2年生の時の壁新聞づくりである。班ごとに模造紙1枚が渡され、記事選びから取材、原稿作成、レイアウト、配色など、役割分担をしながらクラスの壁に貼る壁新聞をつくる。どんな新聞になったかは覚えていないが、家族や近所の人にインタビューをしたり、鉛筆で下書きをしたりしたと、みんなで机を囲んで話し合ったことは今でも記憶に残っている。私が始めて班長さんを務めることになったのとほぼ同時期で、みんなの意見を聞くことの大切さを知り、授業以外ではじめて人前で話す経験をして、その楽しさを知った。

プロジェクトメンバーが取り組むプロジェクトは、もちろん壁新聞づくりとは違うが、私はどこかで、自分が小学生の頃の壁新聞づくりで感じたような楽しさや喜びを、メンバーたちにも感じてほしいと思いながら彼らを見守っている気がする。今年もまた、ローム記念館から、ひとまわり成長して社会に出て行くそんなプロジェクトメンバーの姿を見るのが楽しんだ。

(同志社ローム記念館プロジェクトコーディネーター 西村ひろみ)



プロジェクト・サポート 募金のお願い

学校法人同志社 総長 大谷 實
理事長 八田 英二

学校法人同志社は、同志社大学ならびに同志社女子大学を中心とした法人内各学校が一致協力して同志社ローム記念館でのプロジェクト主義に基づく新しい教育・人材育成を積極的に進めています。また、これまで現代GP申請による補助金獲得など学外資金を積極的にとりいれるべく努力をしております。

この同志社独自の新しい教育・人材育成事業を発展的に展開させるために、教職員をはじめ広く社会、市民のみなさまからご支援をお願いすることとし、プロジェクト・サポート募金を実施しております。皆様方におかれましては是非ともご賛同いただき、ご協力のほどよろしくお願いいたします。募金のパンフレットおよび詳細につきましては、大学京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)にお問い合わせください。

募金は、大学資金課、女子大学経理課、各校事務室でも受け付けます。

同志社ローム記念館
プロジェクト・レポート

DIR

[ディー・アール]



プロジェクトと「経験」

社会人と語り合う「経験」—— 中間報告会

学びの場を創り出す「経験」—— ステップアップキャンプ

同志社京田辺祭2011 —— クローバー祭REPORT

SCoPメンバーが語る —— プロジェクトでの「経験」

■ OP (Old Project-Member) 訪問

■ DIR Information

特集

プロジェクトと 経験 社会人と語り合う



「何でも経験！」よく使われる言葉である。こう言って大人に背中を押されることも、誰しも「経験」しているのではないだろうか。

毎日の生活は、意識をする、しないに関わらず、まさにさまざまな「経験」の積み重ねであり、人にとって、社会生活を営んでいく上で「経験」は貴重な財産である。

特に学生時代は、さまざまなことにチャレンジすることができる絶好の時期であると言える。同志社ローム記念館は、そんな絶好の時期を迎えたメンバーが、さまざまな「経験」を積むための「場」を提供している。

同志社ローム記念館プロジェクトのメンバーは、1年間という限られた期間の中で、社会人や異なる学部学年の仲間とともに目標に向けた活動を行い、その中で大小さまざまな経験をする。今回は、そんな「経験」をキーワードに、この半年間の活動をメンバーの声とともにお伝えする。

社会人と語り合う「経験」

中間報告会

2011年10月1日(土)

今年の中間報告会は、これまでとちがう。

多くのメンバーが報告会に関わりを持てるようにと、ここ数年、プレゼンテーションとポスターセッションで構成されていた中間報告会だが、今回は、本年度新たに設置されたコアプロジェクト「SCoP(スコップ)」（各プロジェクトからの代表で構成され、プロジェクト全体の運営に関わる事業の企画・運営を行うチーム）によって、改めてメンバーの視点で見直しが行われた。

中間報告会を活動の軌道修正のきっかけづくりの場にしたい、限られた活動期間を有効に使えるような運営の仕方を考えよう、と議論を重ねた中で出てきたのが「座談会」だった。日ごろはそれぞれ別の目標に向かって活動しているメンバーたちだが、プロジェクト内で抱える課題には共通点も多い。中間報告会に向けて、SCoPメンバーを中心にあらためて課題を洗い出し、5つのテーマを設定、メンバーの希望をもとにグループわけをして座談会に臨むこととした。

今回の中間報告会には、プロジェクトの外部審査員や同志社ローム記念館のOP（Old Project-Member プロジェクトを経験した卒業生）をはじめ、館の事業に関係の深い企業の方々 20名にお集まりいただくことができ、さまざまな分野でご活躍されている社会人のみなさんとメンバーとの座談会が実現した。



中間報告会前半は劇場空間でのプレゼンテーション。
各プロジェクトが、「プロジェクトの目標」、「前期の活動概要」、「目標達成度」、「今後の展望」について3分間の発表を行った。



座談会のテーマ
「リーダーシップ」「ミーティング・会議運営」
「広報・Web」「情報共有」「スケジュール管理」

ご参加いただいた社会人の方からのメッセージ

パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社

則木博司 様

座談会にてプロジェクト活動における課題をお聞きしてますと、やる気を維持しながらよく活動されていると感心いたしました。

すでに社会人として十分通用すると感じられる方もいらっしゃいますし、企業としては皆さんのようなプロジェクト活動の経験者を即戦力として求めております。自信を持って課題に取り組んで欲しいと思います。

しかし皆さんはまだ大学生です。

学生の時にしかできないこともたくさん経験してほしいと思います。もちろん「無茶」と「無理」とがありますが、良い意味で学生には許される「無理」をいっぱい経験し、悔いを残さないように、そして達成感が得られるようにがんばってほしいと思います。



株式会社 OZMAPR

福井麻里子 様 (同志社ローム記念館OP)

今日、みなさんのお話を聞いていて、現役メンバーの頃、私も同じように悩んでいたと共感するところが多くありました。一方、社会人になった今、学生時代との意識の違いも感じています。今回、OPとして報告会に参加してみて、みなさんにお伝えしたいことが3つあります。

- 1) Passion** 今一度、プロジェクトに参加した目的を思い返してみてください。何か問題意識を感じ、問題解決のために参加を決めたのではなかったでしょうか？そのときの「Passion」があれば、もっと自分たちの成果を広めたいという思いが湧いてくるでしょうし、何ができるかを考えることができます。
- 2) Action** 強い思いを持ち、考えることと同時に、実際に動くこと「Action」が大事です。1年間というプロジェクトの活動期間内では、活動に必要な「勉強」と「実践」を同時並行で進めていかなくては間に合いません。学生の特権を活かして、主体的に動いてほしいと思います。
- 3) Relation** 活動のプロセスで、わからないことにぶつかることもあると思います。そんな時こそ、OPや社会人とのネットワークを活用して「教えてください!」と聞いてみましょう。わからなければ詳しい人に聞く、詳しい人も自分で探すこと、自ら「Relation」をつくっていくことが大事です。



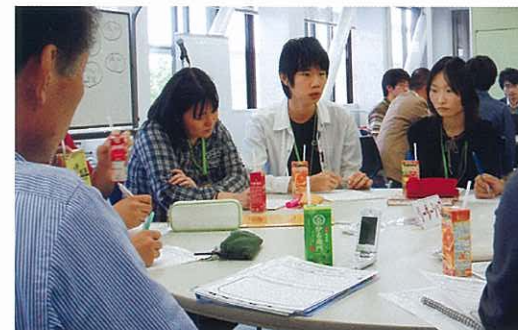
SCoPメンバーより

病院検索おたすけツール開発プロジェクト SCoPメンバー

小羽田諭孝 (同志社大学 生命医科学部1年生)

今回の中間報告会は、プロジェクト活動全体の流れの中で、準備についての負担が少なく済むように、なおかつできるだけ多くのメンバーが中間報告会に参加し、今後の活動に活かせるような報告会にしようと考え、企画したのが「座談会」でした。

座談会については今回が初めてということもあって考えなければならぬことがたくさんありました。特に「座談会をどのように進めて行くのか」「参加するメンバーをどのようにグループ分けするのか」が問題でした。進行に関しては参加メンバーの中から進行役を決め、グループごとに進行してもらうことで見通しが立ちましたが、メンバーのグループ分けに関してはかなり苦労しました。同じプロジェクトのメンバーが同じグループに固まらないようにしたり、話し合いが止まることのないようグループごとに議論をリードしてくれそうなメンバーを配置したりと、参加するメンバーにとって有意義な場になるように担当班で議論を重ねました。



準備の甲斐あって、座談会ではどのグループも活発に話し合っていたし、社会人の方からのコメントで得るものも大きく、今後のPJ活動をよりよいものにしていくためのヒントを得ることができ、予想以上に素晴らしい座談会になったと思います。今回の中間報告会の経験を通して企画の難しさを体感すると同時に、参加したメンバーの感想や各プロジェクトからの振り返りを聞くことによって、企画が無事成功したことの喜びを実感することができました。

最後に座談会に参加して下さった社会人の皆様、座談会の進行に協力してくれたScopメンバー、そして座談会に参加し座談会を成功させてくれた多くのメンバーにこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



学びの場を創り出す「経験」 ステップアップ キャンプ

2011年8月9日(火)～10日(水)

今年のキャンプ企画が動き出したのは5月、SCoPメンバー初の大仕事となった。テーマの検討からプログラム策定、関連ツールの制作、当日のファシリテートまでを担当する。1泊2日、食事や自由時間を除けばトータル約8時間のプログラムなのだが、「人間力UP!」をテーマに掲げ、参加したメンバーに満足してもらえる内容を、と考え始めれば、とてつもなく長い8時間だった。

1日目

アイスブレイク「エア・ボール回し」



メンバーをプロジェクト混合のグループに分けてプログラムがスタート。名前を呼んで、その相手に見えないボールをパスする。呼ばれた人は返事をしてボールを受け取る。ボールが見えないのだから、声の合図はもちろん、相手のことを見る、アイコンタクトを取ることも重要だ。途中からはアイコンタクトだけでボールがグループ内をぐるぐる回る。ボールのサイズが変わったり、数が増やされたり、どんどんスピードアップするうちに自然とメンバーの表情も柔らかかに。チームで活動する上での基本となる「コミュニケーション」の大切なインタラクションを楽しく再確認できるワークとなった。

チームの魅力をアピールしよう！～国ゲーム～

グループごとに架空の国家をつくるワークショップ。グループには国に関する「特徴カード」と「問題カード」が配られた。カードにある条件のもと、自分たちの国の名前や制度、アピールポイントを考える。「天空にある」「教育水準が高い」「発展途上国」で「環境汚染が進んでいる」という課題を抱えた国や、「北極圏に近い島国」で「女性の地位が高い」「人口が多い」特徴をもち、「失業率が高い」という課題を抱える国など、強み、弱みを考慮しながら、個性豊かで魅力的な国々が誕生した。後半は、各国の特徴を活かした商品開発で競い合う。サンプルをつくり、見本市でのPR合戦を展開、多くの人の購買意欲をそそるために工夫した。



OPに学ぶ「プロジェクト活動とキャリア」 住野満稲子さん



学生時代は、コアプロジェクト学生コアスタッフでリーダーとしてイベントの企画・運営を中心に活動していた住野さん。現在の人材教育コンサルティングのお仕事の紹介や最新の人材開発業界の潮流についての講演とあわせて、「わくわく」をキーワードに理想のプロジェクトを考えるワークショップを提供いただいた。

2日目

スポーツフェスタ in ローム～出張版～

身体を動かすプログラムを考えて！というメンバーの要望もあり、朝一番のプログラムはアタマを起こすミニ運動会となった。「借り物競争」に「筋トレ大会」、「風船膨らまし対決」、「仮装大会」の4種目が用意され、大いに盛り上がり一日のスタートを切った。



プロジェクト単位でのまとめ

最後は、プロジェクト単位でこのキャンプで得たこと、今後の活動に活かしたいことを話し合い、2日間のキャンプを締めくくった。



これまで参加する側だったメンバーが主催者側の立場で学びの場を創り出す。中心となって取り組んだメンバーは、どのような「経験」をしたのだろうか。

SCoPメンバーより

ゲームソフトの評価とニーズを探る SCoPメンバー

白井涼子 (同志社大学大学院 文化情報学研究科1年生)

ステップアップキャンプで私が一番難しいと感じたのは、プログラム全体の流れを作るという部分です。

全体ミーティングの場でいろいろなアイデアが出る中、「テーマに合い、流れのあるワークショップを設定する」ことがなかなかできませんでした。一時はプロのファシリテータ(会議やワークショップを調整する人)を呼んで、企画を依頼するという意見まで出しましたが、長い議論の末、メンバーの総意として、

成長するためにも自分たちでプログラムを作ろうということになりました。

私たちキャンプ担当班(ゲームソフトの評価とニーズを探る、ROBO+, ことりんく)がプログラム案を詰めて、次の全体ミーティングで提案しなければなりません。みんなから意見をもらうにせよ、自分たちが提示する案がベースとなり、キャンプの成否を決めることとなります。主導権を持って動くことに対する責任感とプレッシャーを感じました。

SCoPメンバーが出した各々のアイデアをまとめて、そこから新しい案を出し、キャンプの参加者が本当にステップアップできるような内容か、また、プログラムの流れに問題が無いか全体で話し合う。その繰り返しで1回のミーティングに数時間という時間が掛かりました。

キャンプ当日の夜までかかってつくったプログラムでしたが、キャンプが終わった後、メンバーからの「良かったよ」という一言にほっとすると同時に、大きな達成感を得ることができました。

同志社京田辺祭 2011 クローバー祭 REPORT

2011年11月5日(土)～6日(日)

“京田辺から発信!! 参加型エンターテインメント”をテーマとして開催されたクローバー祭。今回は、京都府主催の「第26回国民文化祭・京都2011」や、京田辺校地開校25周年記念などの連携イベントが企画された。ローム記念館プロジェクトも、日頃の活動の成果を社会に発信する場として、また多様で新鮮な意見を取り入れプロジェクト活動の一層の充実を図る場としてイベントを企画、館内は多くの来場者で賑わった。



クローバー祭の劇場空間のイベントや館内の様子は、「ソーシャルメディアスタジオ“ことりんく”(関西学生USTREAM配信し隊)のプロジェクト活動の一環としてUSTREAMにて配信しています! ご来場頂けなかった方も是非ご覧下さい。
<http://www.ustream.tv/channel/rohmtv>

シルククエストR～目覚めし5人の戦士～ (企画・運営: コアプロジェクト コアパブリック)

ローム記念館プロジェクトの広報を担う本プロジェクト。館内の各プロジェクトが企画するイベントブースを巡ってレンジャーシールを集め、広報誌「ippo」にある台紙に貼ると素敵なポストカードがもらえるプロジェクト横断のシールラリーを実施。謎の勇者が館内にあらわれ、ジャンケンで勝つと裏アイテムであるレアシールをもらえるお楽しみ企画も! レアシールは集めるとお菓子がもらえるWチャンスがあり、沢山の市民の方や学生などが「ippo」を片手に館内のイベントブースを訪ねていた。



Hospeeと愉快的仲間たち

(企画・運営: 病院検索おたすけツール開発プロジェクト)



昨年度から引き続き、客観的データをもとにした病院検索サイト「Hospee」の完成をめざし、より一層の充実を図っているプロジェクト。来場者の方に実際にサイト検索を体験してもらい、さらに利便性をあげるためにはどうすればよいのかなど、利用者の視点からの新しいアドバイスや要望などをいただけたようだ。より利用者近く、優しい、本サイトの完成が待ち遠しい。

もっとふりい! な展示会

(企画・運営: もっとふりいネット～障がいを持った人たちがつくる製品、ネット販売プロジェクト～)

障がいを持った人たちの活動を支援している本プロジェクト。作業所で作られた製品を展示したが、素晴らしい作品の数々に来場者にも大変好評で、当日実施したアンケートも多数の回答を得ることができた。今後も継続的な支援活動を続け、社会に発信して欲しいと願う。



翻訳シアター ワヤック (企画・運営: ワヤック)

日ごろは英語書籍の和訳に取り組んでいるプロジェクトだが、今回は洋画の翻訳と字幕の作成に挑戦し、自主翻訳版洋画を1日2本上映。午後のひとときに来場者を映画鑑賞へと誘う企画であった。来場者に、表現がシンプルで分かりやすいかなど、字幕の内容についてヒアリングをおこない、プロの字幕と比較してもいい勝負では!?といったコメントも頂いたようだ。今後の翻訳活動が楽しみである。



ロームゲームショー2011

(企画・運営: ゲームソフトの評価とニーズを探る)

ゲームソフトの評価や評価手法の構築を目指すプロジェクト。「ゲームショー」と銘打った本企画では、大型のスクリーンなどが並ぶゲームコーナーを設置。過去の歴代ゲーム機を並べ、実際に遊んでもらうことで当時そのゲームで遊んでいた人達と初めて見た人達とでどういった反応の違いがあるかを調査した。また、アンケートでテレビゲームについての意識調査を行った。豪華ソフトがあたる抽選もあり、幅広い年代の来場者が訪れた。



ロボットだヨ! 全員集合! (企画・運営: ROBO+)

ものづくり教室とマスコットロボットのプロトタイプの実験を実施。ものづくり教室では、恐竜型の動くおもちゃを工作する教室を開催し、子供たちの歓声の中、沢山の個性豊かな恐竜たちが誕生した。展示したロボットの投票では、ローム記念館のマスコットロボット製作を進めるにあたって貴重な意見を得られたようだ。また、知真館の「きつずばれっ」とも活動を展開、ミニチュア版でレスキューロボット操作体験を開催した。多くの子供たちにロボットの魅力を伝える活動はこれからも続く。



USTREAM配信体験コーナー

(企画・運営: ソーシャルメディアスタジオ“ことりんく”(関西学生USTREAM配信し隊))

今話題のライブ動画共有サイト「USTREAM」を用い、配信受託や配信での効果的な手法を考える本プロジェクト。今までUSTREAMに馴染みのなかった人にも配信の楽しさや手法を伝えたい、との思いから体験コーナーを設置。また、劇場空間で開催した「活動報告」では、国民文化祭・亀岡祭での配信の様子や、過去のイベントの配信について報告。クローバー祭でも配信を続け、「リアルタイム」な配信のようすを報告した。



舞台計画TV (企画・運営: コアプロジェクト 舞台計画)

京田辺祭を人一倍楽しむ情報発信イベントとして「舞台計画TV」を開催し、フレッシュな1年生コンビが司会を担当。個性的な屋台による絶品料理に舌鼓をうちつつ、マジックショーによる驚きあり、ゲームによる真剣勝負あり、ゆるキャラによるダンスタイムあり、と来場者を飽きさせない盛りだくさんの内容だった。一番の盛り上がりを見せたゆるキャラ大集合!では、福島市の「ももりん」をはじめ、ゆるキャラグランプリでも人気の「くまもん」(熊本県)など人気のゆるキャラが一堂に集まり、大人から子供まで笑顔に。主催したメンバーたちにとっても、イベントを企画するということの面白さと難しさを学ぶことができ、大きな収穫となっただろう。



ワクワク! 森林トレジャーハンター (企画・運営: 同志社エコプロジェクト あすみチャンネル)



映像を使った子ども向けの環境教育プログラムとして里山ワークショップを実施。劇場空間での導入映像の後、奪われた宝石を取り返すため子供たちと一緒に学内の里山へ出発! 自然体験を通して自然の魅力や大切さを学び取り、環境への意識向上をはかりたいと企画したイベントで、子どもたちからも「自然のことをもっと知りたい!」といった声が寄せられ、自然に触れることの大切さを実感してくれたようだ。イベントでの学びを再確認してもらえるよう、参加した子どもたちには、後日イベントの様子を撮影した映像が送られた。

事務局日記

私がここ同志社ローム記念館事務室に着任して初めて迎えたクローバー祭。プロジェクトには、何度か祭を経験しているメンバーもいれば、私のように初めて祭を迎えるメンバーも多くいる。回数を重ねて経験するということが、新しいことを経験するということが、そのどちらもが、物事に真剣に取り組もうとすればするほど難しいことだとつくづく思った。メンバーの活動を見ていると、悩みをかかえながらも一生懸命に最善の方法をさがしている姿を見かけることがある。ましてや、祭という日頃の活動とは少し趣のことなるイベントの企画ともなれば、スケジュール調整などから企画の内容まで、より良いものを探求するが故の難しさや、コミュニケーション不足によるメンバー間の認識のギャップなど、それぞれの立場で頭を抱えていた様子が思い出される。新しいことを生み出すことと、より良いものを求めて磨き続けること、そのどちらにも「考える」過程が大切になるが、その「考える」という過程に全力で取り組む「経験」を常に大切にしたいと思う。考えるという経験こそが、人生の岐路における重要な選択をするような時にも生きてくると思うからだ。2日間の祭が終わって、日常の活動に戻ったメンバーたちの笑顔を見ながら、またひとつ強く逞しくなった彼らが更なる高みを目指して活動を充実させてゆく様子を頼もしく感じている。

和田 朋 (同志社ローム記念館事務室)

SCoPメンバーが語るプロジェクトでの

経験

プロジェクト活動期間も折り返しを過ぎた。同志社ローム記念館プロジェクトに参加したメンバーは、いったいどんな経験をしているのか。

SCoPメンバーを対象に、プロジェクトでの「経験」について聞いてみた。



プロジェクトメンバー向けのワークショップではじめて司会を務めた!

キャンプ当日の夜、ギリギリまで翌日のプログラムを練ることに…でも他のPJのメンバーとの活動は楽しかった!

普通の学部1年生だと、こんなに話し合いを重ねたり企画について考えたりする機会がない。先輩たちとのミーティングは貴重な経験!

イベントの企画に初めて参加した! 運営する側としても参加する側としても関わって楽しかった!

- 中間報告会の座談会を企画した時の話し合いの中で、他のプロジェクトの課題が聞けた!
- みんなの意見をまとめて、ひとつのワークショップを形にする経験ができた!
- プロジェクトの報告会で、はじめて発表者を経験!
- 子ども向けイベントのプロローグ映像を制作。子ども目線で考えた!
- プロジェクト内で方向性について意見の食い違いがあり苦労した!
- 社会人の方との打ち合わせを経験! 責任が伴うことを実感!
- 徹夜で作業…でもメンバーと一緒にだと楽しくこなせたと、メンバー同士の絆も深まった!

急遽軌道修正せざるを得なくなったり、作業が追いつかず睡眠時間を削ったり、理不尽なことが起こったり、ここには到底書き表せないような経験をしたメンバーもいる。不安な思いを抱えたり、思いどおりに行かないことも多いけれど、その経験は必ず力になる。そして、終わってみればどれも「いい思い出!」になるはず。

SCoPメンバー

<2011年11月現在・順不同>

濱田 陽平 (経済 4)
白井 涼子 (文化情報学研究科 1)
雨堤 一真 (理工 2)

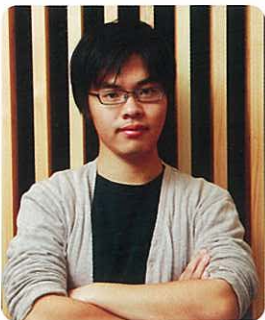
星隈 俊明 (理工 3)
松下 晃 (理工 3)
小川 裕己 (理工 2)
後河内 鉄 (理工 1)
今入 康友 (理工 3)
池上 有香 (経済 1)

久原 拓也 (理工 4)
児玉 知穂 (理工 4)
小羽田諭孝 (生命 1)
則行 祐作 (理工 1)
加藤 裕紀 (生命 1)
藤原 直史 (経済 2)

杉田 達哉 (文化情報 2)
福森 千恵 (女子大学芸 2)
窪山愛里紗 (女子大学芸 1)
田中 裕也 (理工 4)
鈴木絵里加 (女子大学芸 4)
竹内 達也 (商 1)



OP(Old Project-Member)訪問



港写真店

港 泰秀 さん

「コアプロジェクト学生コアスタッフ」として約3年間活動をしていた港さん。この頃のコアスタッフは、劇場空間の可能性を探り、いろいろなチャレンジをしていた時期でした。

大手企業での企業人としての経験も活かしつつ、現在は、家業の写真店での仕事に従事されています。プロジェクト経験者としてアドバイスをくれるだけでなく、カメラマンとして、新たに勉強しながら、イベントごとにファイナダーを通して後輩たちを見守ってくれている頼もしいOPです。

●プロジェクトではどのような活動をしていましたか？

学生コアスタッフは、ローム記念館プロジェクト全体の企画・運営を行う団体です。そのため、ローム記念館全体の活性化に向けて何をすべきか、を常に考えながら活動をしてきました。私はその中でも「企画事業部」(現在の「舞

台計画」)に所属しており、ローム記念館内で行われるイベントの企画・運営に携わっていました。

●プロジェクト活動で印象に残っている「経験」と言えば？

最も印象に残っているのは2年生の時にクリスマスコンセプトとしたイベントの企画で全体統括を務めたことです。ローム記念館内のベーカリーカフェ JOHERMIさんとの協同企画として創作パンのアイデアを学内の学生に呼びかけて募集し、実際に販売を行う「JOHERMI祭」(この年以降、同様のイベントが継続して行われているようで嬉しく思います)をはじめ、映像コンテンツとしてのドラマの制作、音楽関連団体の誘致によるコンサートなど、盛りだくさんなクリスマスイベントとなりました。自分たちがやりたいと思ったことを実現するために、納得のいくまで、とことん話し合ったことをよく覚えています。企画実施の3ヶ月ほど前から事業部のメンバーらと周到に準備を進



OP(Old Project-Member)訪問



め、余裕をもって臨んだつもりでしたが、結局は段取りも進捗管理自体も常にギリギリで、特に本番直前の1週間はほとんどの時間を講義に出る間も惜しんでローム記念館で費やしていたように思います(笑)。でも、自分たちが本当に楽しんで取り組める企画なら、結構無茶なスケジュールも頑張れるものです。

●プロジェクトを通して得たものは？

一つ一つ挙げるとキリがないほど多くの事を学ばせてもらいましたが、その中でも特に次の二点については自分がローム記念館プロジェクトで得ることができたと思います。

【「プロジェクト」を知る】

自分の考えていることが必ずしも他のメンバーの理解を得られるとは限りません。たとえ些細な内容であっても会議やミーティングの中でお互いの意見を出し合って徹底的に話し合う、メーリングリストやソーシャルネットワークサービス等の情報共有のツールを活用するなど、コミュニケーションがとても重要でした。また、プロジェクトとして組織で活動するからこそ欠かせないことがたくさんあることを知りました。企画書の内容をもとに、一人一人がタスクを担い、リーダーが進捗を管理する、めざす成果を達成すべく実行し、得られた結果やプロセスを振り返る。プロジェクトの一連の流れは、社会に出た今でこそ当たり前なことばかりですが、学生の間にこのような経験できたことはとても良かったと思います。

【達成感！】

ありがちな言葉ではありますが、これがプロジェクト活動で得ることができた最も大きな財産の一つです。達成感が次への原動力となることを、身をもって教えてくれた場、それがローム記念館プロジェクトでした。

ここでの活動はプロジェクト内、ローム記念館内だけではなく、時に大学全体、地域の方々にも波及するようなものになります。コアスタッフの活動で言えば、多くの方にローム記念館に興味を持ってもらうきっかけを作ることが出来た、と実感できたとき、何とも言えない充実感がありました。

実際に参加者の方々から「楽しかった、良かったよ」といい反応をいただくと、本当に企画して良かったな、と思います。そして、今回の反省から次の企画はもっとここを

こうしよう、こうすればもっと良くなる、と活動そのものが次の活動への活力へと繋がり、より良い結果を生み出すサイクルを作り出すことになります。

●後輩たちへのメッセージをお願いします。

ローム記念館プロジェクトは、「やりたい!」と思ったことを形にできる環境が整った、理想的なところ。まずは色々なことにどんどんチャレンジしてください、そして周囲を巻き込んでください。僕はここでの活動は楽しくて



仕方がなかったです。そのワクワク感をぜひ味わって欲しいなと思います。

それに、僕は今の妻とローム記念館プロジェクトをきっかけに知り合っています。もしかしたら未来の旦那さんや奥さんがすぐ近くにいてもいいかもしれませんよ(笑)

●港さんには、OP(Old Project-member)ネットワークづくりの旗振り役を担っていただいています。現在どんな感じでしょうか？

今は、次年度にローム記念館プロジェクト卒業生(OP)やメンバー、関係企業の方などが一堂に集まることのできる「OP総会」のようなイベントを開催しようとOPにも声を掛け始めているところです。

OPたちがローム記念館へ集まることのできるような企画、また、Webサービスも活用しながら、OPと現役メンバーが繋がれる場を持つことなどもプロジェクト委員会の先生方、事務室の方々と一緒に考えていきたいと思っています。こうしたOPネットワークによって、OP同士の交流のみならず、OPが卒業後どのような仕事をしているか、ローム記念館プロジェクトで経験したことがどのように今に活かされているのか、など、現役のプロジェクトメンバーと直接顔を会わせて話をする事ができるきっかけを作りたいですね。様々な業種・業界で活躍しているOPと接点をもつことで、今後のプロジェクト活動の活力につながっていけばと思っています。

是非、この話の続きは直接ローム記念館でやりましょう!

プロジェクト活動レポート

ソーシャルメディアスタジオ“ことりんく”
～関西学生USTREAM配信し隊～

「国民文化祭開会式で USTREAM配信！」



「ことりんく」では、私たち自身が実際にたくさんの「USTREAM」配信を行い、有効な活用法を探るために日々研究しています。また「USTREAM」を通じて京都の魅力の再発見やローム記念館の活性化に繋げていきたいと思っています。



「USTREAM」とは2007年3月に設立された動画共有サービスで、Web上で動画が生中継で配信できることが大きな特徴で、視聴者同士がコミュニケーションをはかれ、Twitterなどと連携が強いことも魅力です。

私たちは、プロジェクト活動の一環として、今年行われた「国民文化祭・京都2011」にも参加させて頂きました。開会式と同時刻に行われている亀岡祭の様子を生中継し、放映するというものです。この企画には、京都府庁や多くの企業の支援も頂き、社会との関わりを実感する良い経験になりました。撮影技法のみならず、さまざまな手続きや機器の管理など、本番までの準備が思いのほか



が大変で、何度も亀岡市まで出向きリハーサルも行いました。大きなイベントでの生放送は失敗が許されません。プレッシャーも大きかったです。本番直前には生放送ならではのハプニングも起こり、冷や汗をかいた部分もありましたが、今まで培ってきた数多くの配信経験や、日頃からのメンバー内のチームワークもあり無事成功することが出来ました。



このプロジェクトを通して、一つの目標に向かうためのメンバー間の協調性、スケジュール管理、個々の責任感について学ぶことが多いです。リーダーとしては、メンバーをまとめてそれぞれに合うタスクを振り分ける作業が大変です。上手く進めることが出来なくて苦しんだことも多かったのですが、乗り越えることによって強い人間に成長していると実感しています。ローム記念館プロジェクトでは意識が高い学生も多く、周りのプロジェクトメンバーとの交流は良い刺激になります。このような経験の場を提供してくださっているローム記念館プロジェクトには感謝しています。これからも、今年学んだ経験を糧に頑張っていきたいです。

矢倉 和雄 (同志社大学 文化情報学部3年生)

Event Report

イベント報告 2011年7月～ 2011年12月

● イベント

くーたん@ろーむ
7月13日 (水)
twitterと連動し、大学生ならではの音本トークや知識を共有する番組を制作し、配信した。
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「ソーシャルメディアスタジオ“ことりんく” (関西学生USTREAM配信し隊)」
<http://www.ustream.tv/channel/tramfu-ch>

DR museum in university プロジェクト
現代美術二等兵 駐美術展@同志社ローム記念館
7月19日 (火)～22日 (金)
現代美術二等兵 トークショー
7月19日 (火) 15:00～16:30
籠谷シェーン・ふじわらかつとからなるアートユニット、現代美術二等兵。「楽しい」「おもしろい」作品たちを迎え、作品展を企画。
初日には、現代美術二等兵のお二人を迎えてトークショーも開催。
主催：同志社ローム記念館プロジェクト コアプロジェクト「舞台計画」

科学実験教室「色と光の秘密について知ろう」
8月6日 (土)
地域連携イベント。小学生4～6年生対象の科学実験教室
主催：京田辺地域連携推進室

わがまち“京たなべ”を美しくする会 親子環境教室
8月24日 (水)
主催：わがまち“京たなべ”を美しくする会事務局 (京田辺市役所 市民参画課内)

Let's Go! ～古都を巡って覚えるABC～
9月25日 (日)
主催：京田辺地域連携推進室

2011年度同志社ローム記念館プロジェクト 中間報告会
10月1日 (土)
館内で活動する9プロジェクトが活動の進捗や成果を報告。その後、社会人ゲストを交えての座談会を開催し、プロジェクト活動における問題点についてディスカッションをおこなった。
主催：同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会

同志社女子大学 森・有賀ゼミ合同制作発表会
10月4日 (火)
環境・科学をテーマとするメディアコンテンツ発表会
主催：同志社女子大学学芸学部 情報メディア学科 森・有賀ゼミ

同志社ローム記念館プロジェクトPRESENTS 企業・学生交流会
10月14日 (金)
来年度のプロジェクト募集に向けた新たなコラボレーションのきっかけ作りとして、次年度のプロジェクトエントリーを考える企業と興味のある学生が集まり、意見交換をおこなった。
主催：同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会

Trick or Treat
10月30日 (日)
地域連携イベント。小学生対象のハロウィンパーティー
主催：京田辺地域連携推進室

Doshisha Spirit Week 2011 秋
11月1日 (火)
主催：同志社大学キリスト教文化センター

同志社京田辺祭 (クローバー祭) 2011
11月5日 (土)～6日 (日)
ローム記念館プロジェクトイベントはP7～9参照。
東日本大震災における東北の現状報告会
主催：ベネトレイト (学生による教育ボランティアサークル)
東日本大震災学生ボランティア報告会
主催：Team Rescue (災害支援活動を行う学生と救急隊士を含む消防官の合同ボランティア団体)
けいはんなプラザ プチコンサート IN 同志社京田辺祭2011
主催：けいはんな学研都市活性化推進協議会、けいはんなプラザ・プチコンサート実行委員会 (財) 関西文化学術研究都市推進機構内)



ロームフェア2011
12月6日 (火)～7日 (水)
ローム株式会社の先端技術の紹介や、人事担当者によるリクルートコーナーなどを設置。無料の飲食コーナーもあり、多くの学生や市民でにぎわった。
主催：ローム株式会社、同志社ローム記念館
共催：京田辺市



Bike (自転車・バイク) 事故バイバイ! マナー倍々作戦 IN 同志社
12月20日 (火)
主催：田辺警察署交通課

「メディア表現ワークショップ」発表
12月21日 (水)
主催：同志社女子大学現代社会学部現代こども学科
「メディア表現ワークショップ」

● 展示
心理学部「ファーストイヤーセミナー」ポスター発表2011
7月18日 (月)
主催：同志社大学 心理学部 心理学実験準備室

「オープンキャンパス展」
7月24日 (日)～27日 (水)
主催：同志社大学「クラマ画会」

「東北でのボランティア報告会」
10月10日 (月)～14日 (金)
主催：ベネトレイト

「フィリピンフェア 写真展」
12月12日 (月)～16日 (金)
主催：国際居住研究会 (同志社ソルト)

「田辺展」
12月19日 (月)～22日 (木)
主催：同志社大学「写真同好会」

複合領域科目 学際科目1-15 「プロジェクトとしての人生について考えよう」

授業期間前半で担当教員たちの人生をテーマにしたディスカッションを行い、後半は学生たちが自由に講演会やパネルディスカッションを企画・実施した。取材やアポイントなども自分で行い、劇場空間をはじめ、情報メディア館の情報道場やゴルフ練習場などを活用し、趣向を凝らしたイベントが開催された。



「人生の選択肢」 発表班：ふおあぐら
6月24日 (金)
講演者：学生企業家 林 浩之 (株式会社 Reventive代表取締役)

「Life Size Status」 発表班：Over Reaction
7月1日 (金)
ゲストスピーカー：山中竹千代 (合同会社たけちよ代表) 近藤麻紀子 (NPO法人企業教育研究会) skypeでの出演

「Back for the future ～人生をふりかえって～」 発表班：Project 13
7月22日 (金)
ゲストスピーカー：宮崎要輔 (まいまい京都 事務局長。有限会社デボル 代表) 前山晋哉 (Imagine Cup 2011ソフトウェアデザイン部門日本代表。同志社ローム記念館プロジェクトワック所属)